

盛岡市歴史文化施設整備基本計画（案）の概要について

平成 18 年 11 月 1 日
教 育 委 員 会

1 趣旨

この計画は、平成 11 年に設置した博物館等施設整備基本構想検討懇談会や平成 15 年に設置した博物館施設整備基本計画策定委員会での意見や提言、さらに、平成 17 年度に委託事業として実施した施設整備基本計画の策定を踏まえ、歴史文化施設を整備するにあたり、基本的な方針や施設内容等についての方向性を明らかにしようとするものです。

2 基本理念

(1) 盛岡市総合計画上の位置づけ

① 博物館施設の整備と活用

施策の柱 共に生き未来を創る教育・文化

施 策 歴史を受け継ぐ文化遺産の保護・活用

② 観光交流の推進

施策の柱 活力ある産業の振興

施 策 地域資源をいかした観光・物産の振興

(2) 歴史文化施設整備の目的

① 盛岡の魅力を再認識するとともに個性を際立たせることで、観光・交流の拠点施設として、盛岡市の目指す将来像である「人々が集まり・人にやさしい・世界に通ずる元気なまち盛岡」の形成の礎とします。

② 都市・盛岡のルーツを探り、その歴史と暮らし文化を総合的・通史的に知り、体験できる施設を整備することにより、歴史遺産の保存・活用の主要施設として、“盛岡を知り、考える”場の充実を図り、盛岡市の独自性や地域力の向上を目指します。

(3) 機能

① 継承 未来の盛岡市民のために、時を越えて歴史を継承します

② 貢献 観光集客や、中心市街地の活性化に貢献します

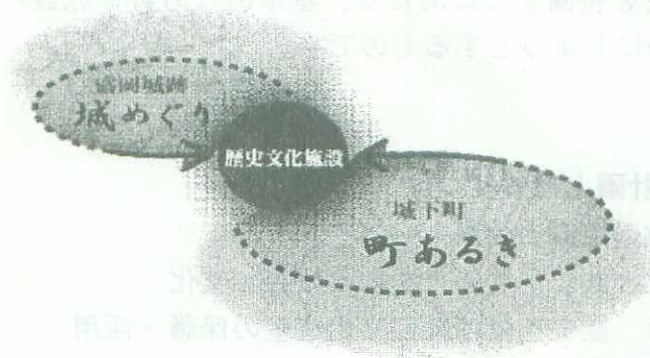
③ 創造 盛岡の歴史や伝統文化を伝え、将来を担う次世代を育成するとともに、新しい盛岡の暮らし文化を創造します

④ 協働 地域文化振興の原動力となり、生涯学習や市民協働の拠点として、市民とともに成長します

(4) 基本コンセプト

もりおか・城と城下町フィールドミュージアム
—都市・盛岡のルーツを探り、21世紀のまちづくりへつなげる拠点施設—

歴史文化施設を中心に、盛岡城跡と城下町（中心市街地）を屋外展示としてとらえ、地域へと広がるミュージアムづくり、活動展開を実施します。



- ① **歴史的・文化的背景を活かした都市型ミュージアムとしての整備**
豊かな歴史的環境を活かした学びの場としての魅力とともに、飲食スペースや交流スペースなどサービス施設の充実、個性ある活動など、施設の開放性とともに魅力あふれる都市型施設としての整備を進めます。
- ② **「最大の展示物」である盛岡城跡と一体化した運用で新たな観光スポットとしての活性化を図る**
盛岡発祥の地として、盛岡城跡のシンボル性を最大限に活かし、城跡を「最大の展示物」としてとらえ、積極的に展示や事業に取り入れ、館と一体化した展開を図ることを目指します。
- ③ **歴史の足跡が残る中心市街地を「城下町フィールドミュージアム」として整備**
重層的な時代の息吹が感じられる「町すじ」「町かど」「歴史的景観」などの盛岡の都市構造や、中津川流域、旧奥州道中筋の町並みなど、歴史文化施設を中心に広がる周辺城下町エリアをフィールドミュージアムの「屋外展示」として位置付け、21世紀のまちづくりへと連動させることを目指します。

3 施設計画

(1) 建設予定地

歴史文化施設は、旧岩手県立図書館を活用（改修及び増築）し整備します。

旧県立図書館	建設年度	昭和 43 年
	管理面積	6,110 m ²
	延床面積	3,658 m ²
	設計者	菊竹清訓 ※屋根棟飾り(避雷針)：舟越保武作

(2) 建物配置計画

施設に必要な機能、施設整備の基本コンセプト等から、次のような配置計画とし、4,800 m²程度の面積を確保するものとします。

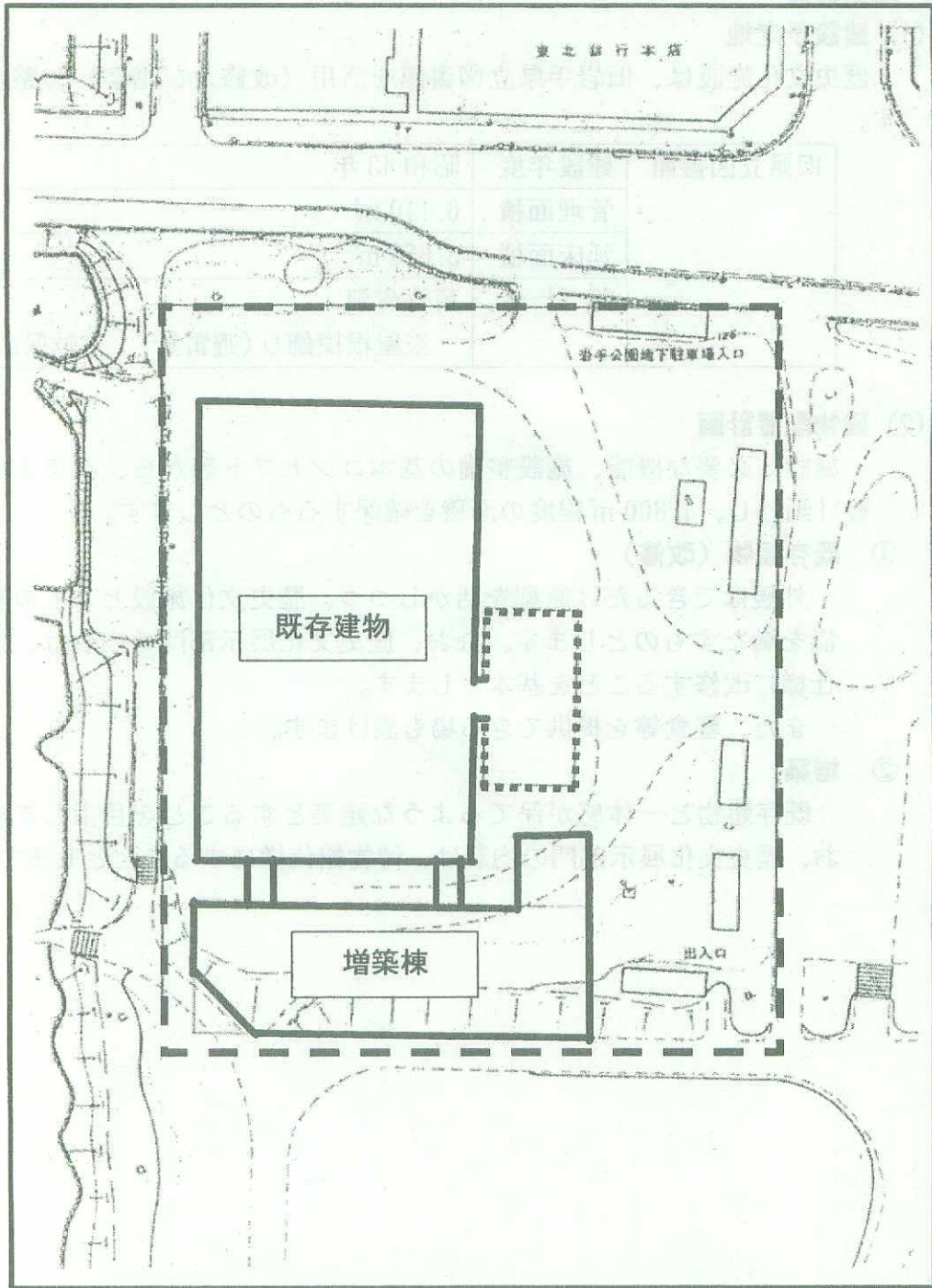
① 既存建物（改修）

外観はできるだけ原型を活かしつつ、歴史文化施設としての基本機能を満たすものとします。なお、歴史文化展示部門の内装は、博物館仕様に改修することを基本とします。

また、軽食等を提供できる場も設けます。

② 増築

既存建物と一体感が保てるような建築とすることを目指します。なお、歴史文化展示部門の内装は、博物館仕様とすることとします。



(3) 施設構成・配置計画

① 部門構成

歴史文化施設は、「盛岡ブランド推進計画」を受け、訪れる人々にさまざまな魅力や情報を提供する都市型観光の拠点施設、また「南部家資料」の公開等により盛岡の歴史や伝統を継承する施設を目指し、さまざまな機能を効果的に活かすよう次の6つのゾーン（部門）に整理します。

ア 文化観光交流ゾーン

観光や集客をメインとして、にぎわいと活気に満ちた魅力あふれるゾーンであり、開放的な空間を設けて、施設の快適性を高めることにも留意します。

このゾーンは、市街地（城下町）と歴史文化施設を有機的につなぐゾーンであり、近代の暮らし文化や祭り・伝統的な産業等を実感できる部門内容とするとともに、歴史文化観光の総合ガイダンスセンターとしての役割も果たします。

また、市民の憩いの場の提供、観光客へのサービスなどを考慮することとします。

イ 歴史文化展示ゾーン

盛岡の歴史の象徴のひとつである「南部家資料」をメインに、複数の展示室で構成するゾーンとします。保存と公開の環境を両立させるよう配慮し、収蔵ゾーンと円滑に連携できるようにします。

また、各展示室の存在を明確にするため、中央に「展示プラザ」を設け、ここを起点にそれぞれの展示室にアクセスできる構成に配慮します。

ウ 市民活動ゾーン

市民の多様な文化活動を支援するとともに、盛岡の「おもてなしの心」を提供する観光拠点施設として、市民との交流を実現できるゾーンとします。

学習体験等の機能のほか、歴史・文化情報提供の機能も併せ持ったゾーンとします。

エ 収蔵ゾーン

多彩な展示活動を支え、「南部家資料」を中心とした資料の保存環境を維持するゾーンとして、資料の収集や保管などの作業がスムーズにできるよう配慮します。

オ 共用ゾーン

トイレ、階段、廊下、エレベーター等、来館者の快適性と利便性に配慮します。

カ 管理ゾーン

館の運営を支えるバックヤードとして、効率的でスムーズな管理ができるよう諸室を配置し、収蔵庫や展示室との関係も重視します。

② 部門配置計画（ゾーニング）

施設配置計画をもとに、歴史文化施設として必要な部門とその関係性を整理します。

文化観光交流、歴史文化展示、市民活動、収蔵、共用、管理の6つのゾーンについて、人の動き、資料の動き、部門間の結びつきなどを考慮し、次の点に留意して具体的な部門配置計画へとつなげます。

ア ゾーンの明確化

来館者の利用に対応するエリアと職員が使用するエリアを明確に区分します。前者は接客空間として快適性を重視し、後者は運営上の機能性や効率性を重視します。

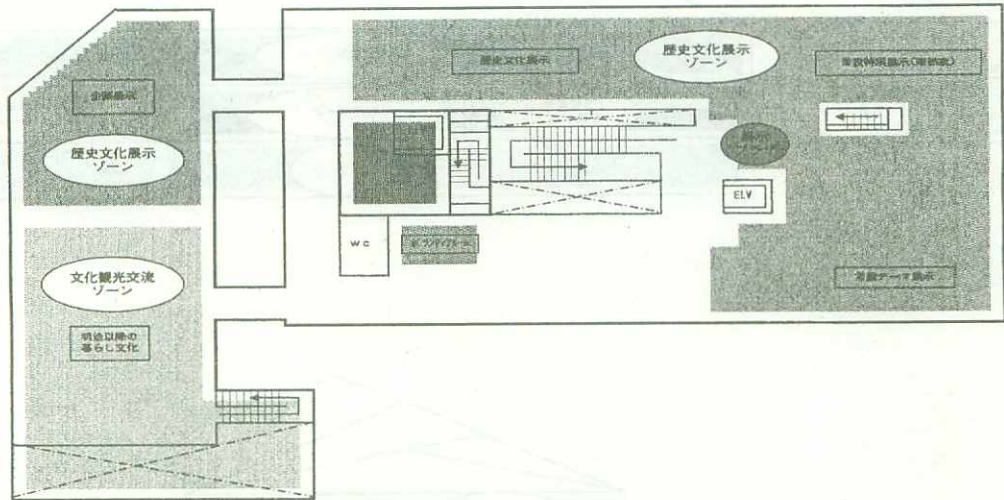
イ 動線の明確化

利用者、職員、資料の3つの動線を明確に区分し、動線の交錯を最小限に抑え、合理的で使いやすい施設設計に留意します。

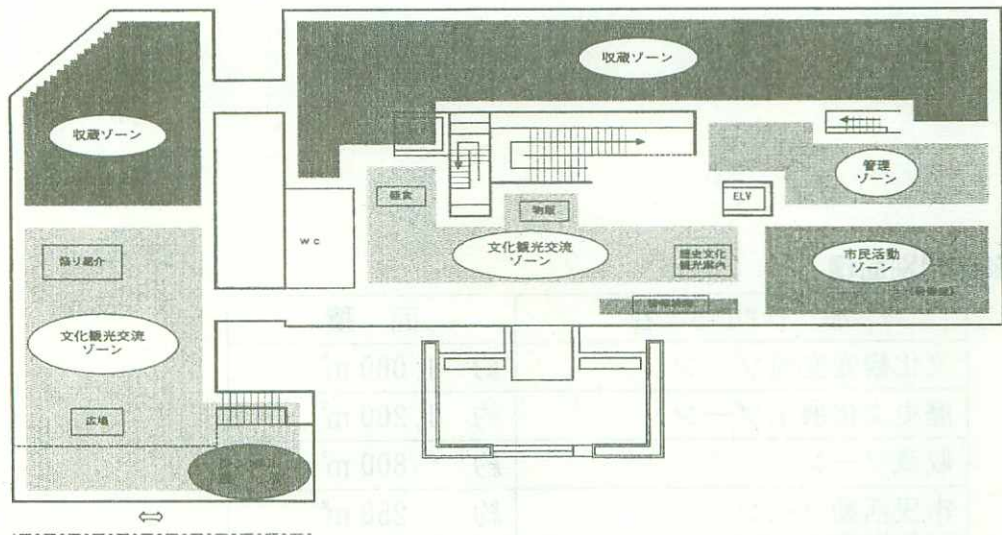
ウ 有料・無料区分の明確化

歴史文化展示ゾーン及び文化観光交流ゾーンの一部を有料とし、展示室をまとめて配置することで、有料と無料を明確に区分します。

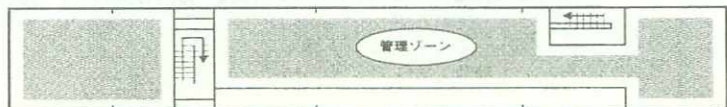
2 階

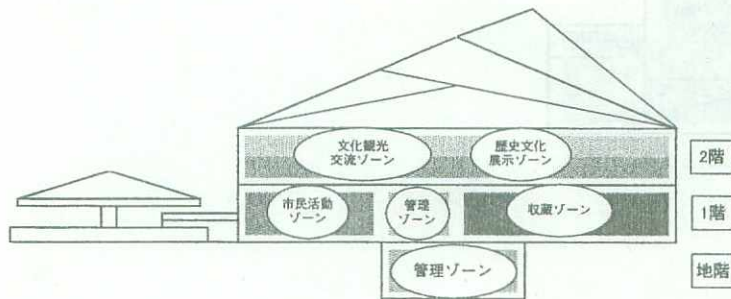
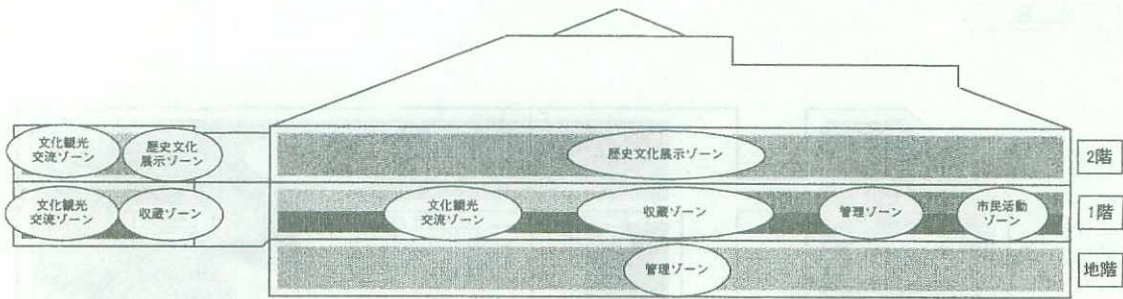


1 階



地階





※部門別面積

部 門 名	面 積
文化観光交流ゾーン	約 1,000 m ²
歴史文化展示ゾーン	約 1,200 m ²
収蔵ゾーン	約 800 m ²
市民活動ゾーン	約 250 m ²
管理ゾーン	約 600 m ²
共用ゾーン	約 950 m ²
合 計	約 4,800 m ²

※文化観光交流ゾーンは、観光案内、飲食施設等含む

4 展示計画

(1) 基本コンセプト

歴史文化施設の展示部門を位置づける「もりおか・城と城下町フィールドミュージアム構想」では、都市・盛岡そのものを題材として、そこに刻まれた「歴史」を読み解き、現代の盛岡とすべての展示は城と城下町に繋がっていることを明らかにすることを目指しています。

■基本コンセプト

都市盛岡の「歴史」を読み解くことで、

“盛岡の暮らし文化は面白い！” “盛岡の歴史は奥深い！”を
実感するきっかけとなる展示

盛岡の暮らし文化は
面白い！

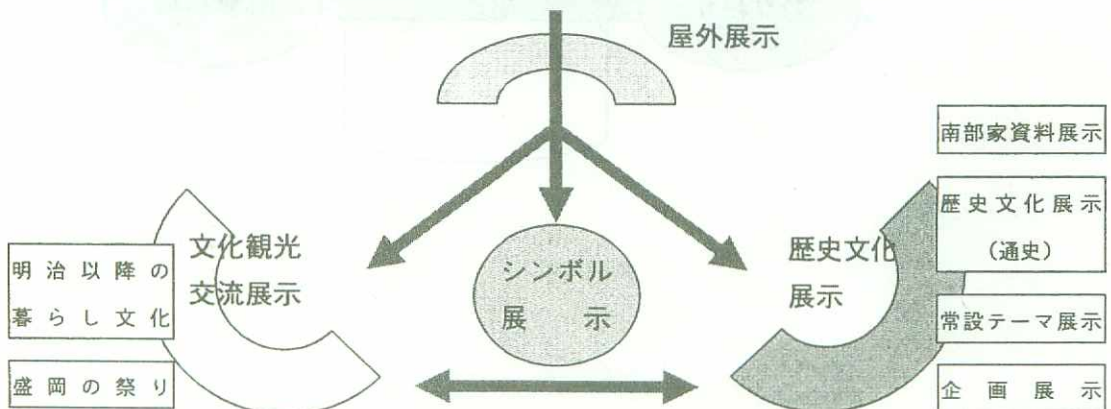
文化観光交流ゾーン

盛岡の歴史は
奥深い！

歴史文化展示ゾーン

(2) 展示構成

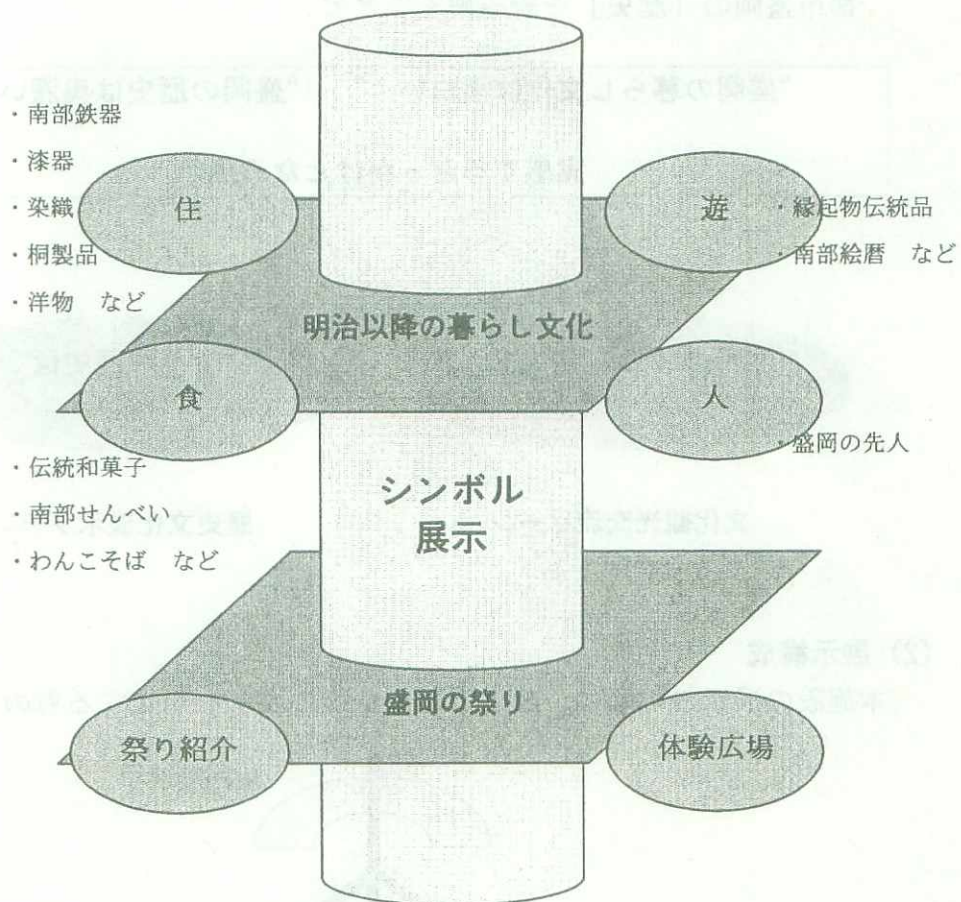
本施設の展示の種類は、次のとおり4つの展示を想定するものとします。



(3) 展示ストーリー

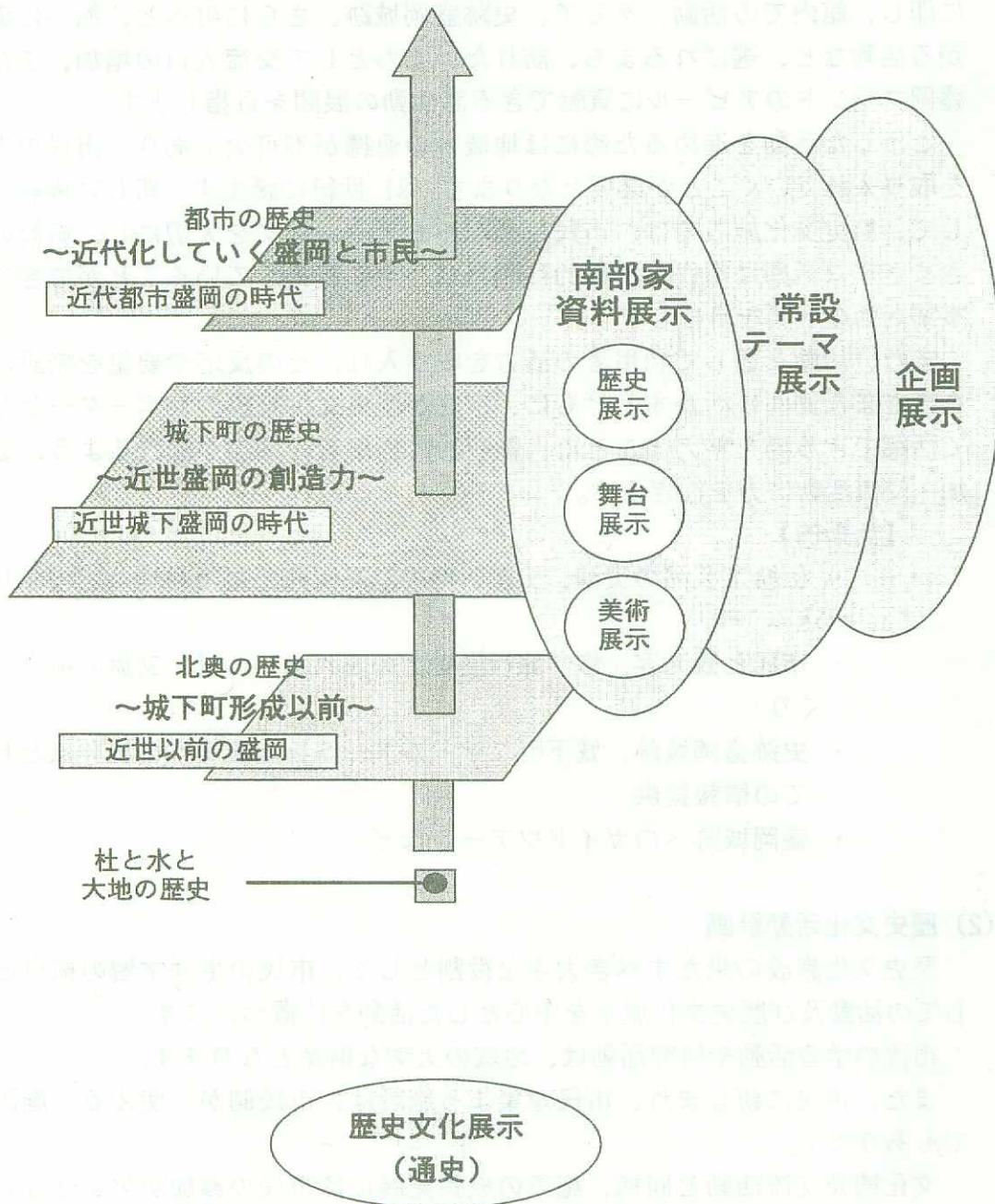
① 文化観光交流展示

現在に直結する近代以降の歴史や文化の源はもちろんのこと、生活の場所や四季折々の年中行事や祭りなどの体験も、都市盛岡を理解する上では欠くことができません。そのような視点から、かつての盛岡が持っていた時代の熱気や活気、郷愁や共鳴を感じる場所を展示として表現することで、集客効果の高い施設づくりに活かし、盛岡の新しい魅力を創造していきます。



② 歴史文化展示

盛岡の歴史の象徴のひとつである「南部家資料」をメインに、複数の展示室で構成するゾーンとします。



5 活動計画

(1) 文化観光交流活動計画

盛岡市の中核的な歴史文化に係る展示公開・文化観光交流施設として、集客機能や地域振興への貢献を事業活動の柱に位置づけ、実施します。

基本コンセプトである「もりおか・城と城下町フィールドミュージアム」に即し、館内での活動、そして、史跡盛岡城跡、さらに町へと、館外に広がる活動など、選ばれるまち、訪れたいまちとして交流人口の増加、また盛岡ブランドのアピールに貢献できる諸活動の展開を目指します。

こうした活動を進めるためには地域との連携が不可欠であり、市民の力を取り入れていくことが必要となります。21世紀に誕生する新しい施設として、歴史文化施設では、市民とのパートナーシップを大切にし、施設のさまざまな活動に市民が積極的にに関わり、共に成長していくことができる事業活動の展開を目指します。

また、活動を通して利用者の活力を取り入れ、その反応や要望を施設のさまざまな側面に活かすとともに、市民が歴史文化施設のサポーターとして活躍できる場を整えることで、継続的に利用者の増加が図れるよう、参加・交流活動に力を注ぎます。

【活動例】

- ・ 伝統工芸品の実演、土産、地場産品販売、郷土料理などの取り込み
- ・ 市民と観光客、修学旅行生等とのふれあいの場・交流の拠点づくり
- ・ 史跡盛岡城跡、城下町フィールド、博物施設等への出発点としての情報提供
- ・ 盛岡城跡へのガイドツアー など

(2) 歴史文化活動計画

歴史文化施設の果たすべき大きな役割として、市民の生涯学習の拠点としての活動及び歴史文化展示を中心とした活動を位置づけます。

市民の学習活動や研究活動は、地域の大切な財産となります。

また、市民に親しまれ、市民が集まる施設は、市民側が“使える”施設でもあります。

文化観光交流活動と同様、施設の成長発展には市民の参加が欠かせない要素であることを意識し、高度化する市民の学習意欲に応えるため、他の博物施設との連携も図りながら、さまざまな学習形態をサポートするとともに、市民参加・市民との協働を積極的に取り入れ、歴史文化施設の継続的な発

展・充実に努めます。

同時に、歴史文化展示や南部家資料展示の裏づけとなる資料の収集やその整理・活用等の活動を体系的、継続的に推進し、歴史文化施設としての活動の基盤の整備・充実を図ります。

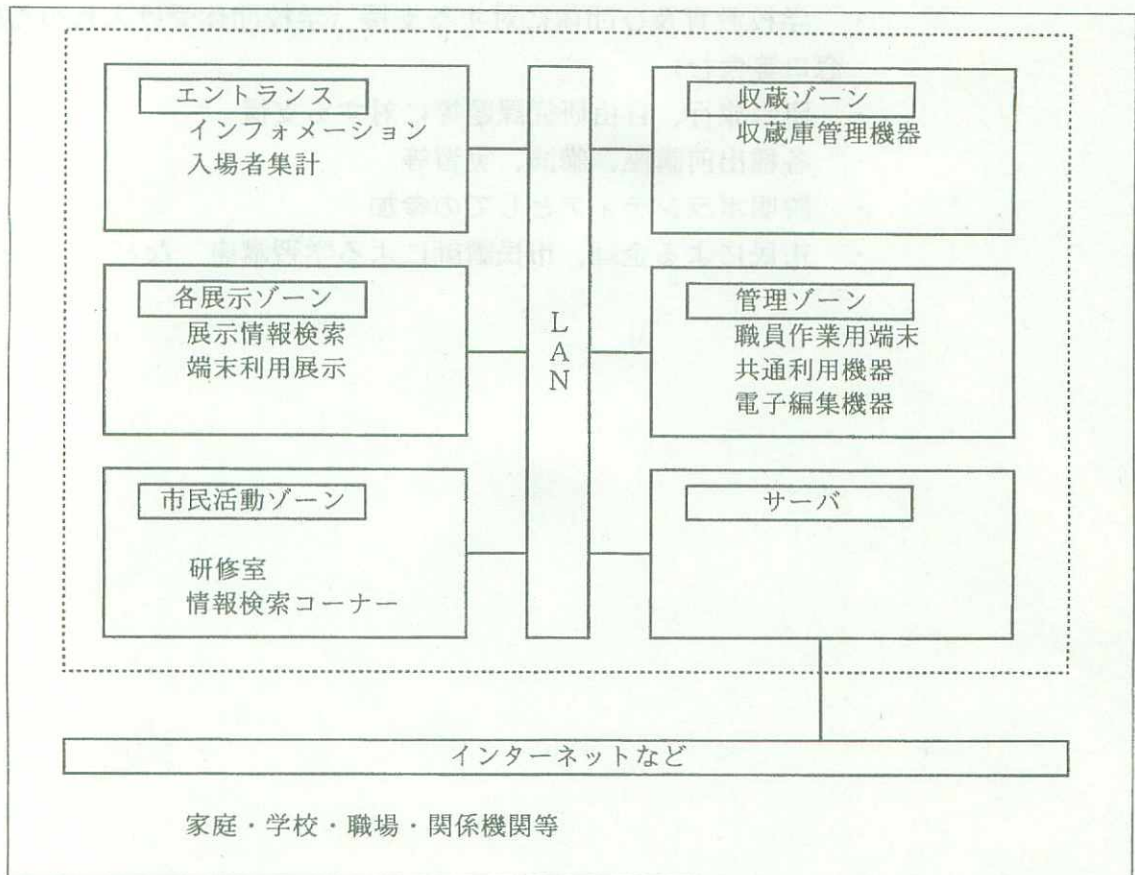
【活動例】

- ・ 地域の歴史文化に関する調査・学習講座の開催
- ・ 伝統的な生活文化に関する体験学習の実施
- ・ 中津川や町家を活用したワークショップの開催
- ・ 学校教育及び団体に対する支援（学校団体受け入れのための窓口等含む）
- ・ 研修旅行、自由研究課題等に対する支援
- ・ 各種出前講座、講演、実習等
- ・ 説明ボランティアとしての参加
- ・ 市民による企画、市民講師による学習講座 など

6 情報システム計画

情報システムは、これからの活動に欠くことのできない社会基盤です。必要とされる情報システムは、収藏品などのバックヤード管理とインターネットなどを通じた情報提供が想定されますが、それらを一元的に統合した施設全体の情報化、及びシステム利用者とのコミュニケーションや関係機関とのネットワークなどについても、その可能性を検討します。

〈情報システムの構成イメージ〉



7 管理運営計画

歴史文化施設は、市民サービスの充実とともに、観光集客や地域振興への貢献が求められています。これに応えるため、利用者の利便性も含め、時代のニーズや変化に対応しうる柔軟な運営のあり方を検討します。

また、管理運営に関しては、施設の諸活動を円滑に進めていくことはもちろん、貴重な資料の保存活用施設・観光集客施設として基本となる安全性など、万全な管理体制が必須条件となります。

これらを踏まえ、歴史文化施設の管理運営形態については、指定管理者制度を含めた検討を行います。

8 概算建設事業費

建築・展示設計費	92	百万円
建築・展示工事費	2,066	(外構工事費を含む)
情報システム・ 備品購入費等	300	
概算建設事業費 計	2,458	百万円

9 スケジュール

平成 18 年度	建築基本設計等
平成 19 年度	建築実施設計、展示基本設計等
平成 20 年度	建築工事（工事監理含む）、展示実施設計、情報システム基本設計、展示資料修復業務委託等
平成 21 年度	建築工事（工事監理含む）、展示工事、情報システム実施設計、展示資料修復業務委託等
平成 22 年度	外構・サイン改修工事、展示工事、情報システム製作、備品購入等
平成 23 年度	開館